様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月　 ６ 日現在

機関番号：３２６１３
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2013～2015
課題番号：２５５８００５８

研究課題名（和文）忍者と探偵、近代日本におけるキャラクター表象の形成と海外伝播に関する文化研究

研究課題名（英文）Ninja and Detective ; Cultural studies on the formation of the character representation in Modern Japan and overseas propagation

研究代表者
吉田　司雄（YOSHIDA, Morio）

工学院大学・公私立大学の部局等・教授

研究者番号：５０２９６７７９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：サブカルチャー領域を中心に、日本発の「忍者」「探偵」イメージは広く世界に浸透している。「忍者」表象に関する国内研究者の共同研究を推進する一方、「探偵」表象に関する研究ネットワークを海外の研究者と構築し、「忍者」と「探偵」とを接合させる形で、日本および東アジアにおける大衆的なイメージの生成過程を分析した。複数の表象が絡まり合いながら、ジャンル横断的に新たな物語コードが生成される様を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：In the center of sub-culture area, Japan's "Ninja" and "Detective" image is pervasive in the world. While the promotion of joint research of domestic researcher on the "Ninja" representation, a research network on the "Detective" representation was constructed with researchers from overseas. By joining the "Ninja" and "Detective", we analyzed the process of popular image generation in Modern Japan and East Asia. By multiple representations are joined, the way that cross-genre to a new story code is generated, we explained.

研究分野：日本近代文学

キーワード：文学一般　日本文学　大衆文化　忍者　探偵　国際研究者交流（台湾）　国際研究者交流（韓国）

１．研究開始当初の背景
(1) 日本初の「忍者」「探偵」イメージは広く世界中で流通しているが、アカデミズムの領域で十分な検討がなされてきたとは言い難い。文学研究でも、忍者小説はこれまで時代小説の一ジャンルとして以上にはほとんど取り上げられておらず、近年探偵小説の研究こそ活性化しつつあるが、サブカルチャー領域まで視野を広げた研究はまだこれからという状況であった。

（2）研究代表者は「科学言説と探偵小説のトランスナショナルな移動と交差をめぐる文化研究」という研究課題名で科学研究費補助金挑戦的萌芽研究〔2010－12 年度、課題番号 22652025〕を受け、探偵小説・犯罪実話・ミステリ映画などに表象される「探偵」に関して論究を続けていたが、同時に、探偵小説のサブジャンルであるスパイ小説とも重なる「忍者」に新たに注目し、「忍者文化研究会」を組織。昭和 30～40 年代の「忍者ブーム」を演出した五味康祐「柳生武芸帳」、司馬遼太郎「梟の城」、村山知義「忍びの者」、柴田錬三郎「赤い影法師」、山田風太郎「甲賀忍法帖」などを共同で読み進めると共に、多様な文化領域を横断する「忍者」表象に関する資料の集積に努めていた。

（3）また、研究代表者は 2009 年に台湾の国立中興大学台湾文学研究所に招聘され、近代日本の探偵小説史について連続講演（3 月 16～18 日）をする機会を得ると共に、トランスナショナルな文化接触がいかに文学テクストに影響を与え得るかを考察する台湾の研究者との共同研究プロジェクトを開始していた。

２．研究の目的
（1）これまでほとんど研究対象として取り上げられてこなかった「忍者」表象に関する文化研究的アプローチを試みると共に、「探偵」表象に関する研究と接合することで、新たなサブカルチャー研究の領域を開拓、日本いや東アジア大衆文学・文化史の全面的な刷新を企図した。

（2）「忍者」表象に関する国内研究者の共同研究を引き続き推進し、時代小説や時代劇映画のみならず、漫画やアニメ、ゲーム等にも目配りしながら、研究会を積み重ねた。実態とは遠く離れたところで生成発展してゆく「忍者」表象の多様性を可視化し、そう遠くない時点での論集刊行を目標とした。

（3）現在各国バラバラに進行中の「探偵」表象に関する研究ネットワークを国内外の研究者と構築することを目指した。合同シンポジウムや国際ワークショップを開催し、ジャンル横断的な議論のできる場を設け、「忍者」と「探偵」とを架橋することで、研究状況の活性化をはかった。

３．研究の方法
（1）「忍者」は近代日本が構築した神話的イメージである。明治の忍者研究家・伊藤銀月らによって発見され、また立川文庫によって流布されたそれは、江戸時代までの忍者の実像とは隔たりがあり、第二次大戦後に時代小説で忍者を主人公とする作品が次々登場し「忍者ブーム」が到来すると、映画や漫画など様々なジャンルを横断しながら多様な分岐を遂げた。のみならず海外へと広く伝播したことで、そのイメージはさらなる変容を遂げたが、まず該当作品を博捜し、分析を進めた。なお、研究期間中に『忍者文芸研究読本』（笠間書院、2014 年）が刊行されたが、忍者の存在を実体化する傾向がやや強く、表象それ自体の生成と変容を問題とする本研究のアプローチとは違いがあると考えている。

（2）ジャンル混淆や異文化接続によって変容する表象間の相互連関性を論じるために、海外の研究者とも積極的に交流し、国際シンポジウムにも参加して議論を積み重ねた。特に台湾の研究者と共同研究を進め、「歴史と記憶」という問題設定のもと、ノスタルジアとモダニズムとの錯綜の中で、史実とは異なる表象が立ち上がる様相を検討した。

４．研究成果
（1）科学研究費補助金基盤研究（C）「メディア環境との相関性に基づく日本探偵小説の史的研究」〔2014－16 年度、課題番号 26370226、研究代表者＝押野武志〕のメンバーとの合同シンポジウム「忍者と探偵が出会うとき」を 2014 年 8 月 9 日（北海道大学）、2015 年 8 月 1 日（甲南女子大学）と二回にわたって開催。日本サブカルチャー史における「忍者」表象の多様性を「探偵」表象と接合することで浮き上がらせた。以下、プログラムを転記しておく。
第 1 回「忍者と探偵が出会うとき」
吉田司雄「名探偵、「歴史」に挑む―『時の娘』あるいは忍者の抹殺」
寺山千紗都「忍者という逸脱した体―山田風太郎『忍びの卍』を中心に」（コメンテーター谷口基）
押野武志「戦前期大衆文学論の諸相」コメンテーター牧野悠）
井上貴翔「戦前期探偵小説における〈入れ替わり〉」（コメンテーター清水潤）
乾英治郎「芥川龍之介「報恩記」―芥川文学における〈探偵小説〉あるいは〈忍者小説〉の可能性」（コメンテーター横濱雄二）
今井秀和「戦時下の忍者と軍事探偵（スパイ）―藤田西湖『忍術からスパイ戦へ』を読む（コメンテーター諸岡卓真）
共同討議（総合司会中沢弥）
第 2 回「忍者と探偵が出会うとき Ⅱ」
問題提起「忍者 VS.探偵」（吉田司雄、押野武

志）
谷口基「忍者から探偵へ―過渡期のロマンを検証する」（コメンテーター佐藤淳）
小松史生子「少女漫画に引き継がれた忍者表象―和田慎二『スケバン刑事』の戦略（コメンテーター清水潤）
諸岡卓真「〈日常の謎〉と隠密―瀬川コウ『謎好き乙女と奪われた青春』」（コメンテーター井上貴翔）
共同討議（総合司会横濱雄二、コメンテーター牧野悠・今井秀和・中沢弥）

（2）台湾の研究者と連携をとり、国際的なワークショップに複数回参加し、「忍者」研究の可能性について論じた。複数の表象が絡まり合いながら、ジャンル横断的に新たな物語コードが生成される様を明らかにした。「歴史と記憶」をテーマとする中国語の学術論集の刊行が近づいており、日本語版の準備にとりかかっている。参考に 2016 年 2 月 26 日開催のワークショップでの発表要旨の結語を引用しておく。台湾の研究者との共同研究を通して到達した現時点での関心が簡明に表明されているからである。
「私は 2013 年度から「忍者と探偵、近代日本におけるキャラクター表象の形成と海外伝播に関する文化研究」という研究課題名で日本の研究費（科学研究費挑戦的萌芽研究）を受けて共同研究を進め、また別の研究グループとのコラボとして合同シンポジウム「忍者と探偵が出会うとき」を過去二回開催してきたが、「探偵」と「忍者」との連関性を史的に辿るなかで見えてきたキータームが二つある。モダニティ（modernity）とノスタルジア（nostalgia）である。近代市民社会の成立期に成立した「探偵」イメージはもとより、私たちが思い浮かべる「忍者」イメージもまた紛れもなくモダニティの産物なのだが、言説間のヘゲモニー闘争のなかでそれらがノスタルジアの対象として再構築されるとき、むしろ歴史から切断されたフラットな空間が増殖してしまうように思えるのである。そのあたりのことを、現代日本における台湾イメージの問題と絡めて話してみたい。」

（3）山田風太郎などの忍法小説を読み進める中で見えてきた新たな課題が、忍法における死者蘇生術とゾンビとの思わぬ連関性であった。ハイチ島のブードゥー教の伝承としてシーブルック『魔法の島』（1929 年）が書き記した蘇る死者ゾンビは、映画『ナイト・オブ・ザ・リビングデッド』（1968 年）で生者を食らうという決定的な特徴づけがなされるが、その延長線上で生起した日本メーカーのゲームソフト『バイオハザード』（1996 年）が映画化を通して逆に海外へと波及するなど、結果的にゾンビは現代日本サブカルチャーを構成する重要な要素ともなっている。そもそもの起源から切断されたフラットな空間でイメージを増殖させてゆく様態は、さながら海外における忍者表象の広がりと対をなしている。日本の時代小説でも都筑道夫『神州魔法陣』（1978 年）、火坂雅志『関ヶ原幻魔帖』（2001 年）などゾンビが登場する作例は少なくないが、荒山徹が『魔風海峡』（2000 年）で、朝鮮忍者檀奇七忍衆の死者を蘇らせる妖術をハイチ島のゾンビ伝承と同じ起源から枝分かれしたものとする説明を、単に伝奇作家の荒唐無稽な妄想と決めつけることはできない。なぜなら伝承を育んだ社会的文化的環境から切断されたイメージ群は、その軽さゆえに思いがけぬ接合をたえず生起させ得るのであり、忍法とゾンビ蘇生術との接合は魅力的なジャンル混淆の例として注目に値する。「探偵」だけでない様々なサブカルチャーアイテムをイメージ連関する要として、「忍者」の存在を再確認することができた。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）
①谷口基「忍者から探偵へ―過渡期のロマンを検証する」、『層』第 9 号、査読有、頁未定、ゆまに書房、2016 年

②小松史生子「少女漫画に引き継がれた忍者表象―和田慎二『スケバン刑事』の戦略」、『層』第 9 号、査読有、頁未定、ゆまに書房、2016 年

③牧野悠「〝朧〟の越境―五味康祐「柳生連也斎」前・後」、『人文研究』第 43 号、査読無、pp57-89、千葉大学文学部、2014 年 3 月 31 日

④中沢弥「池波正太郎と加藤清正毒殺説」、『熊々論々』、査読無、pp44-49、熊本学園大学、2013 年 11 月 15 日

〔学会発表〕（計１１件）
①吉田司雄「忍者と探偵／モダニティノスタルジアの交差」、台日研究生ワークショップ「越境と文学的想像力」、2016 年 2 月 26 日、国立中興大学、台中（台湾）

②谷口基「忍者から探偵へ―過渡期のロマンを検証する」、合同シンポジウム「忍者と探偵が出会うときⅡ」、2015 年 8 月 1 日、甲南女子大学（兵庫県神戸市）

③小松史生子「少女漫画に引き継がれた忍者表象―和田慎二『スケバン刑事』の戦略」、合同シンポジウム「忍者と探偵が出会うときⅡ」、2015 年 8 月 1 日、甲南女子大学（兵庫県神戸市）

④吉田司雄「昭和ノスタルジアの中の「台湾」」、国際シンポジウム「歴史と記憶―交差する台日戦後サブカルチャー史」、2015 年 7 月 17 日、国立中興大学、台中（台湾）

⑤吉田司雄「大衆文化研究の射程」、国際シンポジウム「(去）疆界台灣文學研究的能動性」、2014 年 12 月 13 日、国立中興大学、台中（台湾）

⑥牧野悠「秘術の叙法と視覚情報―剣豪・忍法小説と挿絵」、昭和文学会秋季大会、2014 年 11 月 8 日、成蹊大学（東京都武蔵野市）

⑦吉田司雄「名探偵、「歴史」に挑む―『時の娘』あるいは忍者の抹殺」、合同シンポジウム「忍者と探偵が出会うとき」、2014 年 8 月 9 日、北海道大学（北海道札幌市）

⑧乾英治郎 「芥川龍之介「報恩記」―芥川文学における〈探偵小説〉あるいは〈忍者小説〉の可能性」、合同シンポジウム「忍者と探偵が出会うとき」、2014 年 8 月 9 日、北海道大学（北海道札幌市）

⑨今井秀和「戦時下の忍者と軍事探偵―藤田西湖『忍術からスパイ戦へ』を読む」、合同シンポジウム「忍者と探偵が出会うとき」、2014 年 8 月 9 日、北海道大学（北海道札幌市）

⑩久米依子、川端有子、吉田司雄「『赤毛のアン』をめぐる言語配置―物語とジェンダー」 日本近代文学会春季大会、2014 年 5 月 25 日、聖心女子大学（東京都渋谷区）

⑪吉田司雄、兪在眞、陳國偉、藤井得弘「東アジア探偵小説史の展望と可能性」、日本近代文学会 2013 年度 12 月例会「国際研究集会―日本近代文学のインターフェイス」、 2013 年 12 月 1 日、日本大学文理学部（東京都世田谷区）

６．研究組織

(1)研究代表者

吉田　司雄（YOSHIDA, Morio）
工学院大学・教育推進機構国際キャリア教育部門・教授
研究者番号：５０２９６７７９

(3)連携研究者

中沢　弥（NAKAZAWA, Wataru）
多摩大学・経営情報学部・准教授
研究者番号：２０２７９８２１

谷口　基（TANIGUCHU, Motoi）
茨城大学・人文学部・教授
研究者番号：２０６３４０７５

小松　史生子（KOMATSU, Syoko）
金城学院大学・文学部・教授
研究者番号：６０３５０９４８

牧野　悠（MAKINO, Yuu）
帝京大学・理工学部・講師
研究者番号：５０５７１６２６

(4)研究協力者

清水　潤（SHIMIZU, Jun）
首都大学東京・都市教養学部・助教

今井　秀和（IMAI, Hidekazu）
国際日本文化研究センター・機関研究員

乾　英治郎（INUI, Eizirou）
立教大学・非常勤講師

末國　善己（SUEKUNI, Yoshiki）
文芸評論家